

音の良いプレーヤーシステムは何か
厳選 15 モデルの音質比較

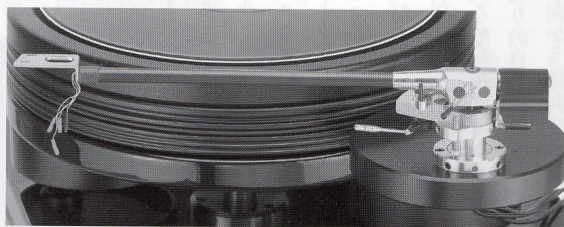


ノッティンガムアナログスタジオ | Space 294HD | ¥898,000(税別)

●型式:カートリッジレス・マニュアルプレーヤー [トーンアーム部(Space 294)] ●型式:スタティックバランス型 ●実効長:294mm ●カートリッジ適合重量:6.0~13.0g [ターンテーブル部] ●駆動方式:ベルトドライブ ●回転数:33・1/3、45rpm ●プラッター:350mmφ特殊合金製60mm厚(自重・10kg) +カーボンセラミック製25mm厚(自重・3.5kg) [総合] ●寸法/重量:W565×H260×D400mm/33.0kg ●備考:他に標準タイプの「Space 294」(¥778,000)もあり ●発売:2011年10月 ●問合せ先:ヨシノレーディング(株) ☎050-3375-3975

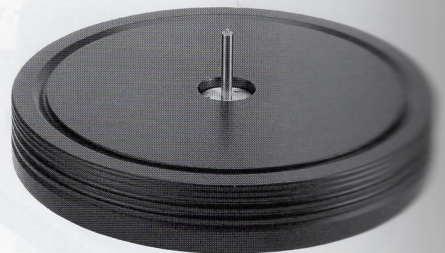


合計重量13.5kgのプラッターを支える軸受には、砲金製スリーブと特殊コバルト合金製シャフトという上級機譲りの構造を採用している。



実効長294mmのロングアーム「Space 294」を搭載。アームの上下動を制御するために、通常のベアリングによるスタティックな支持方式ではなく、特殊なダンピング材料で支持している点が特徴。これによりアームへの外部振動による影響をかなり低減しているという。

Nottingham Analog Studio



25mm厚のカーボングラファイト製ブラッター(自重3.5kg)と、60mm厚の特殊合金製ブラッター(自重10kg)を重ねたユニークな二重構造を採用し、音のグ効果を向上させた350mm径ブラッター。

イギリスのノッティンガム・アナログ・スタジオの製品は、日本では97年発売の1号機「スペースデッキ」以来すっかりお馴染みのブランド。2年前の別冊『アナログ・バイブル』でも「Ace Space」を試聴した。だがその後、日本の輸入代理店のチェンジなどがあがり、しばらく製品が途絶えていたようだ。しかしこのほど、新たにスタートした輸入商社が代理店に決定し、販売再開を迎えた。

今回聴いたのは新代理店の設立記

念として新開発されたもので、ベースは前回の別冊で聴いたモデル。ただしブラッターは14インチ(350mm)径と大型化され、アームも実効長294mmのロングアーム。ベースも含め全体に大型化した堂々たるモデルだ。なお試聴した「HD」仕様のほかスタンダード仕様のモデルもある。

大型のブラッターは特殊なソフトアルミ合金製で厚さ60mm。「HD」仕様ではさらにその上に厚さ25mmのカーボングラファイト製ブラッターを重ね、総

重量13・5kg。これを支えるサブベースはブナ材HDF製。これを置く角形のベースもブナ材製。同社が常に良質な木材の確保に拘ることはよく知られてきた話だが、なるほどと思う。

駆動はベルトドライブだがモーターが超低トルクなので、ブラッターの定速回転を維持するには使いこなしのコツを要するといった、気難し屋の面もある。それにアームも良質な素材と造りで高性能だが、針圧も掛けにくく指掛けもないなど、これも使いにくい。

全体が弾力性に富んだ木質系の響き。

そこに気品に満ちた凛々しさと柔軟さも備わる

だが音が鳴りはじめると一瞬にしてそんなことを忘れさせ、気難し屋の使いにくさなど何としても乗り越えて使いたいかなずぞと思いたくなるほどの魅力。しかもサウンドは気難し屋どころか、胸襟を開いて親しげに語りかけてくるかのよう。もちろん語りかけるのは音楽の楽しさについてで、不思議とも言いたいほどの心地良さに包み込まれる。全体が弾力性に富んだ木質の響きなのだが、そこに気品に満ちた凛々しさとともに、しなやかさも柔軟さも備わり、かつハツとするほどの静けさもある。オーケストラの馥郁たるトゥッティなど絶品だが、ジャズには少しマイルドすぎるかと思いつつも、気がつくともうライヴハウスの席に座っているかの気分に入り込んでいる自分に驚く。

NOTTINGHAM ANALOG STUDIO

ノッティンガムアナログスタジオ

●問合せ先:ヨシノトレーディング(株) ☎050-3375-3975 <http://yoshinotrading.com/>

起動時には回転補助が必要だが、
基本構造には徹底してこだわる物造り

ロートルクのACシンクロナスモーターを用い、起動時には人の手による回転補助がないと回らない(正規の回転数に達しない)という、「一瞬「エッ!」と思う手段でデビュリーしたノッティンガムアナログスタジオのプレーヤー。この確信犯的モデルの第一弾が、97年に日本初上陸を果たした際のモデル「スペースデッキ」。その考案者であり、同社の主催者であるトム・フレッチャーは、父親の織物機械工場で働きながらエンジニアとしての腕とセンスを磨き、ブランド名にもなっている英国のノッティンガム地方に、フレッチャーが30歳のときに、1970年にアナログプレーヤーの工房的ブランドを立ち上げた。

前記した手動補助の根拠として、フレッチャーは、ターンテーブルはただ粛々と回転し続けなければならないという境地に立っている。そのためのノウハウとして、金属や木材、化学材料に関して独自の審美眼を持っているように思う。亜鉛合金をベースとしたターンテーブル、砲金製スリーブと特殊コバルト合金が用いられた軸受、樺材のベース

など、ひとつひとつの材料を見れば特に凝ったものではないのだが、まさにそれらの総合的パフォーマンスは、圧倒的なS/N感に支えられたものである。モーターは24極の精密ACシンクロナス型を一貫して採用。丸型断面のゴムによるベルトドライブ方式を採用し、回転数の切替はプリー部分の掛け替えによる。

トーンアームについてもマテリアルを巧みに組み合わせ、非常にユニークなものを生み出している。たとえばカーボンファイバー製チューブ、真鍮、アルミ、ステンレスといった異種材料を巧みに組み合わせ、シンブルだけでも理に適った合理的なトーンアーム「スペース・アーム」などをリリースしている。

先般、新たな輸入元で再スタートを切ったこともあり、再び注目を集め始めているところ。製品ラインナップを再整備中という状況だ。90年代半ばに彗星のごとく日本デビューを果たした頃の話題性を集めることができれば、ノッティンガムのブーム再来となるかもしれない。

●プレーヤーシステム



Space 294HD ¥898,000(税別)

(原簿)000.000.14 32-9X